

## 中小企業政策審議会制度設計 WG 報告書骨子（案）

2020 年 12 月 17 日

## 1. 新型コロナウイルス感染症の中小企業・小規模事業者に与える影響

## 2. 中小企業の生産性分析

## (1) 規模別・業種別の労働生産性

- ・近年、大企業と中小企業の労働生産性の格差は拡大。他方、足下では、コロナ禍のため、労働生産性が低下。
- ・製造業、情報通信業では、従業員規模が大きくなると、労働生産性も上昇。他方、小売業、飲食サービス業では、従業員規模が大きくなっても、労働生産性は上昇しない。
- ・小売業など非製造業の労働生産性は、所在地域の人口密度に影響を受ける。

## (2) 価格転嫁と労働生産性

- ・中小製造業の実質労働生産性の伸びは、大企業製造業と遜色ない水準。他方、価格転嫁力がマイナスのため、名目労働生産性の伸びは低迷。
- ・なお、中小企業では、業種を問わず、コスト全般の変動を「概ね転嫁できた」企業は限定的。

## (3) マークアップ率

- ・諸外国と比較すると、日本のマークアップ率は低迷。価格競争の激化が背景。

## 3. 既存の中小企業支援策の効果検証

## (1) ものづくり補助金

- ・規模の小さい企業で売上高伸び率や従業員数増にプラスの効果。補助上限の影響など精査は必要。

## (2) サポイン事業

- ・採択から 6～8 年後に、毎年の売上高で 20 億円程度プラスの影響。

## 4. 今後の中小企業政策の方向性

## (1) 中小企業の類型

- ・「グローバル型」、「サプライチェーン型」、「地域資源型」、「地域コミュニティ型」に分類。それぞれの類型において、創意工夫する事業者を支援。

## (2) 地域資源型・地域コミュニティ型企業の目指す方向性と支援のあり方

### <分析>

- ・地域における小規模事業者の意義。良いものを高く売ること（価値創造）の重要性。

### <施策>

- ・地域全体のグランドデザインに基づき、需給バランスの取れた持続可能な経済圏の形成（地域コミュニティ型）
- ・自らの地域資源を最大限活用した域外需要の取り込み（地域資源型）。

## (3) グローバル型・サプライチェーン型企業の目指す方向性と支援のあり方

### ①スケールアップ支援

#### <分析>

- ・中小企業から中堅企業への規模拡大パスは、i) 資本金を増加、ii) その後従業員を増加。86%（製造業等）は従業員基準を超過して中堅企業に拡大。

#### <施策>

- ・規模拡大パスに位置する企業群を、規模拡大に資する一定の補助金・金融支援の対象とすることを検討。
- ・M&A等による規模拡大促進（経営資源集約化税制、集約化手続の短縮）。

### ②海外展開支援

#### <分析>

- ・直接輸出、直接投資を行う中小企業は、生産性が高水準。特に、新たに輸出や投資を開始した企業は、雇用の伸び率が高い。

#### <施策>

- ・日本公庫のクロスボーダーローンの対象国・地域（タイ、ベトナム、香港）の拡大を検討。

## (4) 共通基盤整備

### ①大企業と中小企業の共存共栄

- ・下請振興法の支援対象として、発注者自ら利用するサービス提供等（フリーランス向け取引を含む）を追加するとともに、下請中小企業の取引機会を創出する事業者を支援する仕組みを創設。

### ②事業継続力強化

- ・中堅企業と中小企業の連携による事業継続力強化の取組支援の強化を検討。
- ・市区町村が災害リスクの高い地域に所在する中小企業に通知する仕組みを検討。

## 5. その他

### (1) NPO 法人等の多様な主体の中小企業政策への位置づけ

### (2) 小規模事業者の定義の考え方